



interview

ばん

しげる

坂 茂

人に愛される建築を造る 坂 茂・建築家の哲学

2020年春、大分県立美術館を設計した建築家・坂 茂さんの企画展が開催されます。世界的に活躍する建築界の巨匠に、建築家としての歩みや作品にかかる思い、今回の企画展についてなどお話をうかがいました。

— 建築家を志したきっかけを教えてください。

幼い頃から建築に興味があり、最初は大工になりたいと思っていました。家を建てるのは大工の仕事だと思っていました。中学のとき、技術家庭の授業で簡単な設計を習い、建築家という職業を知りました。建築の道を志したのはそれからです。

高校時代はラグビーに熱中し、将来は建築もラグビーも有名な早稲田大学に行きたいと思っていました。ところが、2年のとき出場した全国大会で1回戦敗退。実力差に気づいて、理工学部でなく美大の建築を目指そうと考えました。そしてニューヨークのクーパーユニオンという美大系建築学科へ留学して本格的に建築を学びました。

— 災害支援を積極的に行っているのが、なぜこうした活動を行っているのでしょうか？

建築家になってみて、その仕事で社会の役に立っていないと感じたからです。お金や権力がある人のために立派な建築を造り、彼らの権威を視覚化する。そんな仕事ばかりの建築家の役割に疑問を感じていました。

転機となったのは、1994年のルワンダ虐殺です。数百万人が難民となった惨状を見て、国連難民高等弁務官事務所に紙管を使った避難シェルターの建設を提案し、コンサルタントになりました。翌年の阪神大震災時には、同じく紙管を使った仮設の集会所「紙の教会」を神戸に建設しました。この「紙の教会」はその後台湾に移設され、20年以上が経つ

た今でも活用されています。

紙の管と聞くと強度に不安を覚える方がいるかもしれませんが、それは単なる先入観。しっかり加工すれば強度や耐久性に優れた素材になります。軽いので組み立てや解体がしやすく、比較的安価で再利用もできるなど、たくさんのメリットがあります。

— 現在も世界中の被災地で支援をしています。日本では近年、紙管と布を使った避難所の間仕切りシステムが注目を集めました。

避難所用間仕切りを本格的に提供し始めたのは東日本大震災の頃からです。当初は「前例がない」という理由でどこも採用してくれませんでした。説得を重ね少しずつ普及していききました。何度断られても説得を続けたのは、絶対に必要なものだと思っていたからです。プライバシーが守られなければ人間は生活できない。だから絶対に諦めてはならないと思っていました。

最近では昨年の台風19号や、16年の熊本地震などで活用されています。熊本地震のときは、隣県の大分県と私のNPO法人ボランティア・アーキテクト・ネットワーク(VAN)が災害協定を結んでいとおかげで、スムーズに支援できました。私が大分県立美術館を設計した縁です。

— 大分県立美術館やフランスのボンビド・センター・メスなど、美術館も多数手がけています。これらについてご紹介いただけますか。

大分県立美術館は、県民に開かれた場



©Hiroyuki Hirai

何度断られても説得を続けたのは、絶対に必要なものだと思っていたから

を造ることを念頭に置いていました。美術館は愛好家だけが来る、閉じられた空間になりがちです。そうではなく、街を歩いている人が面白そうだから入ってみようと思えるような気持ちの良い空間を目指しました。

ボンビド・センター・メスも同様に、開かれた空間にこだわりました。また「ピクチャー・ウインドウ」と言って、ギャラリー内の大きな窓から市の代表的なモニュメントが見えるように設計しています。この場所ではか成立しない、外と中が連続する空間を造りたいと考えていました。

災害支援から美術館の建築まで行っていますが、一貫しているのは「人に愛される建築を造りたい」ということ。特に日本人は海外と比べ、公共建築への愛着が少ないと感じます。日本の経営者やリーダーが建築に興味がなかったり、良い建築に触れる機会が少なかったり、さまざまな理由がありますが、それでも人に理解され、愛される建築を造ることが建築家の責任だと思っています。

皆さんも良い建築にたくさん触れてほしいです。大分は昨年ブリツカー賞も受賞した日本を代表する建築家、磯崎さんの出身地。磯崎さんが手がけた素晴らしい建築がたくさんあるので、もっと知ってそして誇りに思ってください。

— 11月4月24日から大分県立美術館で待望の坂茂建築展が開催されます。展示の見どころを教えてください。

建築に興味がない人や、子どもも楽しめる展示にしたいと考えています。

通常、建築の展示では図面が飾ってあることが多いですが、図面は楽譜と同じで一般の人には読み取れません。そうではなく、原寸大のモックアップや木で作った試作品、建設の工程がわかる映像などを展示する予定です。初期の頃の作品から、18年春にできた由布院駅の観光案内所、昨年に完成したばかりのスイスのスウォッチ・オメガ本社などの近作まで紹介します。大分県立美術館の設計過程やこだわりも紹介しているので、いつも来ている方もそうでない方もより愛着が持てると思います。

展示では1階アトリウムをこれまでになく広く使い、誰でも見られる無料エリアも設置します。無料エリアでは実物大の仮設住宅など、災害支援関連のものを展示し、なるべく体験できる要素を増やしたいと考えています。

全体を通して、建築の知識がなくても楽しめる内容です。見ていただければきっと理解できるので、ぜひ足を運んでみてください。

Data 坂茂建築展

仮設住宅から美術館まで

4/24(金)~6/21(日)

▶大分県立美術館 1階 展示室A・アトリウム

[時間]10:00~19:00、金・土曜~20:00 ※入場は閉館の30分前まで [料金]一般1,000(800)円、大学・高校生700(500)円 ※ ()内は前売りおよび20名以上の団体料金。障がい者手帳等をご提示の方とその付添者(1名)は無料。学生の方は入場の際、学生証をご提示ください [問]大分県立美術館 Tel:097-533-4500